



天地を私事又帰
三船久蔵



この記念館では、柔道をはじめ将棋や書道など、三船久蔵の生涯や業績を紹介しています。

展示室には、柔道着や筆、硯など、三船の愛用品や作品を展示。ビデオ・モニターでは神技「空気投げ」など、当時の貴重な映像を紹介しています。

また、迫力ある画面を写し出すマルチ・スクリーンでは、少年時代から講道館入門、夫人との生活にいたる三船の生涯を紹介。コンピュータ制御によるロボット講師と映像が描き出す、ダイナミックなドラマが楽しめます。

そのほか柔道場や駐車場正面に立つブロンズ像など、三船久蔵を顕彰するさまざまな趣向が施されています。



三船久蔵言

柔道は、人を鍛えるための道である。心身を鍛え、精神力を養い、忍耐を教える。柔道は、人を鍛えるための道である。心身を鍛え、精神力を養い、忍耐を教える。柔道は、人を鍛えるための道である。心身を鍛え、精神力を養い、忍耐を教える。



●入館料金

区分	個人	団体(20名様以上)
小・中学生	150円	100円
高校生・学生	300円	200円
一般	400円	300円

開館時間●AM9:00～PM4:30
 休館日●毎週月曜日、国民の祝日、毎月末火曜日、年末・年始
 交通●久慈駅より車で5分

久慈市立 三船十段記念館

〒028-0082 岩手県久慈市川貫 5-20-230 市民の森
 TEL 0194-53-2210
 FAX 0194-53-2240
 E-mail mifune@city.kuji.iwate.jp

記念スタンプ



永久に語り継ぎたい柔聖の技と心
三船十段記念館
 MIFUNE JUDAN MEMORIAL GYMNASIUM

◆三船十段年表

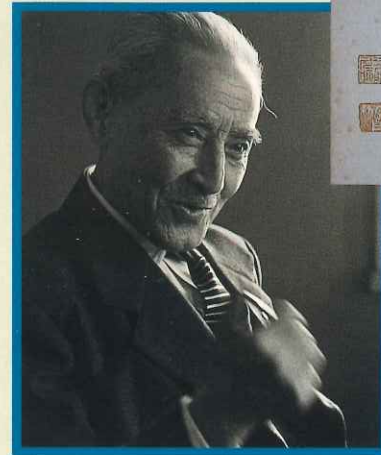
明治	16. 4.21 (1883)	旧久慈町三船久之丞三男として生まれる
	29. 3.31 (1896)	久慈町尋常高等小学校を卒業
	30. 4. 1 (1897)	仙台第二中学校に入学
	36. 7.26 (1903)	講道館入門
	37. (1904)	早稲田大学予科入学
	37.10.23	初段に昇段 (21歳)
	38. (1905)	慶応大学理学部予科入学、懸賞新報、雑誌「はやり髪」出版
	38. 2.19	講道館有段者試合で二本どり 16人勝負で8人を投げ二段となる (21歳)
	39. 1.14 (1906)	三段に昇段 (22歳)
	40. 5.23 (1907)	四段に昇段 (24歳)
	42. 1. 9 (1909)	五段に昇段 (25歳)
	43. (1910)	東大、明大、日大等 11校の柔道師範となる
大正	元.11. 6 (1912)	郷里に帰り平谷郁子 (21歳) と結婚 (29歳)
	3. 6. 6 (1914)	長女絢子誕生
	6. 1.14 (1917)	六段に昇段 (33歳)
	12.1.14 (1923)	七段に昇段 (40歳) 講道館指南役
昭和	5.11.16 (1930)	第1回全日本柔道選手権大会で特別選手として、佐村嘉一郎七段と模範乱取
	6. 1.25 (1931)	八段に昇段 (48歳)
	9. 5. 5 (1934)	天覧試合に発熱をおして田畑昇太郎八段と特選乱取
	10. (1935)	三船久蔵ブロンズ胸像完成 (52歳)
	11. 6. 6 (1936)	長女絢子結婚
	12.12.22 (1937)	九段に昇段 (54歳)
	15. 4. (1940)	常盤台新居
	20. 5.25 (1945)	十段に昇段 (62歳)
	20. 5.27	長野県志賀村に疎開 (8ヵ月) 町道場「樹徳館」を創設
	26. 2.26 (1951)	浪打保育園創設、名誉園長
	28. 4.21 (1953)	古稀を迎える「柔道の歌」作詞発表
	28. 5. (1953)	「柔道回顧録」発刊
	29. 5. 5 (1954)	柔道教典「道と術」発刊
	29.12.25	久慈市名誉市民第1号推戴
	30.11. 3 (1955)	名誉市民顕彰
	31. (1956)	衆議院講師、柔道部名誉師範
	31.11. 3	紫綬褒章を賜わり表彰
	33.10.25 (1958)	久慈市 (巽山公園) に三船記念館設立
	33. (1958)	三船十段創案技「空気投げ (隅落)」扁額完成
	34.11.26 (1959)	日本学士会からアカデミー賞授与される
	36.11. 4 (1961)	文化功労者として顕彰
	36.11. 6	受賞、金婚式、祝賀会
	38. 4.30 (1963)	久慈市に土地家屋寄贈三船十段の家建設
	39. 4.29 (1964)	生存者叙勲第1回勲三等旭日中綬章授与される
	39.11. 3	久慈市十周年記念式典で名誉市民章贈られる
	40. 1.27 (1965)	千代田区駿河台日大病院で長逝 (82歳)
	40. 1.27	勲二等瑞宝章を授与され全日特旨を以って位記を追賜せられ正四位に叙せられる
	40. 2. 2	文京区春日町の講道館大道場において、講道館葬が執行される
	40. 7.18	久慈市民会館において、市民葬執行される
	40. 7.18	三船十段留魂碑建立 (巽山公園)
	45.10.10 (1970)	三船十段銅像建立 (岩手国体記念)
	51. 9.19 (1976)	三船十段顕彰碑建立 (行田市水城公園)
	53. 5. 4 (1978)	三船十段顕彰碑建立 (久慈駅改築記念)
	54. 6.27 (1979)	三船郁子夫人長逝 (87歳)
	58. 6. 1 (1983)	三船十段顕彰碑建立 (久慈小学校 110周年記念)
平成	2. 8. 6 (1990)	三船十段記念館開館
	15. 9.10 (2003)	三船十段創案技「球車」扁額完成 (生誕 120年記念)



「MU」

自然の調和に従って生きること
いつ、どこで、何があってもすぐ順応できる一番素直な
白紙の状態に自分をおくこと

「無の境地」



「絶筆」

技は芸術であり、文武は一道である。

「自他共栄 中心帰一」

仙台二中に進んだ三船久蔵は、学業に飽き足らず、二高の道場まで柔道の見学に出かけました。そこで見よう見まねで柔道を覚えたといいます。中学を卒業し、補習科を修了した三船は、上京して講道館に入門。年中休まず稽古を続けました。そうした修練の末、生まれた技が「空気投げ (隅落)」。相手が動に転じた瞬間、重心をさげて相手を投げる。まさに「柔よく剛を制す」、柔道の真骨頂といえる神技です。

また平常心の鍛練と集中力の養成などのため、三船は子供の頃から興味を抱いていた将棋の世界にも身を投じます。生来の負けん気、腕はメキメキ上達。ついには日本将棋連盟から三段を授与されるほどになりました。

事あるごとに「技は芸術であり、文武は一道である」と披露していた三船は、「武」のみならず「文」にもその才能を遺憾なく発揮しました。その代表が書道。なかでも絶筆となった「自他共栄・中心帰一」の書には、三船の人生が凝縮されているかのようです。

九段三船久蔵

多年日本傳講道館柔道修行精力ヲ盡シ技精妙ニ至リ依テ段列ス向後益々研磨シ他日斯道ニ於テ可期為師範者也

昭和五年五月十五日

講道館長 南郷次郎

身長 159cm、体重 55kg の小兵ながら、近代柔道の礎を築いた講道館の最高位の十段にまで上り詰めた久慈市出身の柔道家、三船久蔵。生涯を通して日本柔道の発展に尽力し、その功績を称え 82 年の生涯と業績を紹介しているのがこの記念館です。

柔道場では、道場生の稽古が盛んに行われており、三船十段の精神が受け継がれています。



「神技」

「柔道の神様」といわれた三船十段創案の究極の技

「空気投げ」